

目次

2006年度事業関係	
事業概況報告	5
事業内容	
【1】事業活動	8
【2】組織と運営	24
2007年度事業関係	
【1】本年度事業計画の概要	27
【2】事業活動	27
【3】組織と運営	33
2006年度決算報告および2007年度予算	
【1】貸借対照表	34
【2】収支決算表	35
特定非営利活動法人 寝屋川市民たすけあいの会地域ケアセンター *2006年度事業報告と2007年度事業計画について	37
会員関係	44
*2006年度運営委員名簿	
*2007年会員名簿	
寝屋川市民たすけあいの会会則	47
特定非営利活動法人 寝屋川市民たすけあいの会地域ケアセンター定款	50
寝屋川市民たすけあいの会のあゆみ	61

寝屋川市民たすけあいの会 2006年度事業概況報告

寝屋川市民たすけあいの会は、1978年5月に設立以来、市民の手により主体的につくられた寝屋川ボランティア・ビューローを拠点として、様々な地域活動を行ってきた。

2006年度に実施した当会の事業活動概況は次のとおりである。

2006年度は、これまで数年間課題としてきた、たすけあいの会が「サービス事業所としてのたすけあいの会」、「ボランティア・ビューローとしてのたすけあいの会」、そして「会員組織としてのたすけあいの会」の3つの側面の点それぞれについて、一定の見直しと今後の展開を含めての試行錯誤の年であった。特に2006年度は、障害者自立支援法の施行という大きな波が来、その中で、特にぼちぼちはうすの存続が大きなポイントであった。

まず、事業部門においては、2000年から事業をはじめ、2003年度の支援費制度の施行にあわせた障害者支援の事業化によって事業部門は完成を迎えた。介護保険の基準該当事業者の取得から始まり、事業部門を担う「NPO法人寝屋川市民たすけあいの会地域ケアセンター」の設立、取得。法人事業として身体障害者相談事業である市町村障害者生活支援事業の委託、精神障害者のホームヘルパー事業の補助。そして、日中活動の場は、基準該当の身体障害者デイサービスに、そして障害者ヘルパーの派遣の事業所を設立した。地域生活支援をささえる市民参加のセンターとして、小規模多機能を標榜し相談・訪問・日中活動の場を持つことになった。

しかし、介護保険にはじまった制度改革の波は、支援費制度にもおよび報酬改定や制度改革が行われ、事業部門は大きな減収を余儀なくされた。さらに2006年度には、改革そのものがピークになる中で、特に当会の事業部門は、支援費制度の改定→障害者自立支援法の制定に翻弄された。10月にはいわゆる新体系に移行し、制度上は「生き残った」わけではあるが、内部的な課題を大きく抱え、新しい年度をむかえている。

次にボランティア・ビューロー、市民組織としてのたすけあいの会は、ボランティアや市民活動を取りまく状況も大きく変わって来始めている中で、関係団体との新たなネットワークを模索し、3年ほど事業中心で、あまり行ってこなかった事業を昨年度に引き続き取り組みをおこなった。精神関係の活動への積極的な支援、ボランティア講座の開催、数年ぶりのかわち市民塾の開催、など新たな発信とネットワークの再構築を模索し始めている。また、新しい動きであるNPO活動にも、一定参画し、活動を行っている。しかしながら、在宅ボランティアに関しては、課題

が山積みのみで、有効な対策がうていない。また、ボランティアビューローとしてのたすけあいホームのあり方についても、検討を行い、徐々に整理を行っている。

最後に、会員組織としてのたすけあいの会については、昔からの会員さんの高齢化の問題が表面化し、会員さんの入れ替えの時期にさしかかっている。また、事業が前面にでていることもあり、組織的には脆弱化している部分があるのも否めない。しかし、昔からの会員さんの交流会やミニデイ（たすけあいサロン）の見直しをはじめ、会員交流的な面も強めていく方向をうちだし始めている。

以下は「たすけあいの会」が2006年度に行った事業の内容である。

【1】地域活動では、まず在宅ボランティア、介護保険と障害者のホームヘルパーの派遣、ガイドヘルパーの派遣、日中活動の場「ぼちぼち하우스」の運営（障害者デイサービスとその他）を行った。

2006年度在宅サービス実績

	利用者数	回数	時間
ボランティア	1人	12回	
介護保険・訪問介護	0人	0回	0時間
移送車貸出（ボランティアによる移送運行含む）	休止		
上半期（4月～9月）			
精神障害・居宅介護	1人	47回	93時間
支援費・居宅介護	7人	526回	2530時間
施設入所者ガイド	1人	2回	12時間
外出介護（身体、知的、障害児）	38人	615回	3452時間
ぼちぼちハウス（障害者デイ）	11人	696回	4239時間
下半期（10月～3月）			
居宅介護	4人	157回	268時間
重度訪問介護	6人	360回	3363時間
行動援護	3人	49回	200時間
移動支援	31人	306回	1572時間
重度障害者等包括支援事業	5人		3913時間
ぼちぼちハウス（障害者デイ）	9人	363回	2207時間

次に交流活動として、在宅の老人・障害者・難病患者の交流会（在宅療養者交流会）を春・秋に開催した。今年度も月に1回のたすけあいサロン（ミニデイサ

ービス) と月に1回の言語障害・失語症の方のミニデイサービスを開催した。

【2】老人福祉施設への訪問活動は、寝屋川十字の園に11回、ロイヤルライフ・カミダに3回、輝きのまちケアハウス池田デイサービスセンターに17回訪問、活動した。また、めぐみデイサービスセンターに20回訪問した。老人保健施設松柏苑への活動はなかった。

行事援助活動も昨年に引き続き、定期的にめぐみデイサービスセンターよりイベント補助の依頼が入り、ロイヤルライフ・カミダ、輝きのまちケアハウス池田とともにお手伝いをさせていただいている。

また、引き続き寝屋川保健所の主催行事「ひまわり会」「ほほえみ会」へのお手伝いも続けさせていただいている。

【3】需給・連絡調整活動では、主にボランティア関係やその他の受理件数が38件あった。また、地域生活支援センターでは、さまざまな相談を中心に相談と連絡調整で1539件の相談を行った。

【4】ボランティアへの援助としては、在宅サービス活動に参加するボランティアのためのケース検討会を開催した。

また、昨年度に引き続き、カンガルークラブへの支援を、寝屋川難病連絡会、障がい者の自立を考える会「やじろべー」への協力・援助を行った。

また、大阪ボランティア協会とろうきんのプロジェクトに協力した。

精神障害者地域交流事業「ひなたぼっこの会」改め「Club E&T」の事務局を引き受け活動の支援をした。

【5】教育活動では、寝屋川市社会福祉協議会の補助を受け、精神保健福祉ボランティア講座(初級編)かわち市民塾連続講座を開催した。市の公益事業の助成金にて、精神保健福祉ボランティア講座(上級編)を開催した。また、福祉医療機構の助成金にて、「障害者ジョブサポーター養成講座」を開催した。

【6】広報活動では、会誌「つなぐ」を6回発行した。さらにマスコミやミニコミを利用し、また講演活動にも応じ、会のPRに努めた。

【7】その他、相談活動や調査活動、見学の受け入れなども行った。

介護保険サービス提供事業者の第三者委員に任命された。

事業内容

【1】事業活動

1. 地域活動

(1) 在宅サービス活動

①在宅ボランティア活動

2006年度に「たすけあいの会」に寄せられた在宅ボランティアのニーズは38件であった。このうち27件に対応した（継続分含む）。

ボランティアの依頼として入りながらも相談をしていくうちに、制度の適応できるものも増えている。また、逆に介護保険制度の改正などで、制度内で対応できずボランティアとしての相談も増えてきている。しかし、そのほとんどは、有償のサービスの依頼であり、旧来のボランティア依頼はほとんどなくなっている。有償の依頼については、他団体を紹介している。

また、地域生活支援センターの生活支援での訪問は、ここにカウントはしていない。

合計対応ケース数のべ1件 合計回数 12回

☆具体的な活動内容は以下のような内容である。対象者は、高齢者、障害児者、児童、難病者であった。

【主な活動内容】

①部屋の大掃除、買い物・銀行等への付き添い、見守り、役所手続き代行、薬取り、受診付き添い、引越しのお手伝い、学校が終わってからの遊び相手、通院付き添い、学校までの送迎ボラ、留守番など。今年度は、障害児さんの遊びのケースがほとんどであった。

②移送サービス事業

8年前、市内の住民参加型在宅福祉サービスを手がけていた団体が解散することになり、その団体が日本財団から、もらいうけていたリフト付きの軽ワゴン車を譲渡されることになった。また、2001年2月には、新たに日本財団より車輛（マツダ・デミオ）の寄贈を受け、2003年2月に「24時間TV愛は地球を救う」よりハイエースの寄付を頂いた。今年度初めに、会員より、中古乗用車（トヨタ・ラウム）を、今年度末に、新たに、日本財団より軽車両（三菱ミニキャブ）を寄贈いただいた。合計現在5台の車輛を保有している。

以前より、病院などへの車での移送、送迎は在宅ケースとして対応していたが、車の譲渡を機に、リフト付き軽ワゴンの貸出およびこの車を利用した移送ボランティア（前掲）による移送を行っていたが、国の方がNPO等による移送サービスの

制度化を進めており、その動向を見ていくため、一昨年度からは移送サービスそのものを休止した。一昨年度、半ばに運営協議会の結成に伴い、NPO法人有償移送（いわゆる道路交通法80条適用移送）の申請を行った。

その他、当会行事、当会事業、「ぼちぼちはうす」による運行を行っている。

③介護保険・訪問介護事業・居宅介護事業（身体介護・家事援助）【法人事業】

2000年度4月より、介護保険の訪問介護事業を基準該当サービス事業者として開始した。これまでの在宅ボランティア活動の延長として行い始めた。

さらに、2002年度より、精神障害者の居宅介護等事業をはじめた（法人事業）。2002年8月より、これまでの在宅ボランティア活動の延長として1ケースの派遣がはじまった。

2003年度より、身体障害、知的障害児者の制度が支援費制度になり、身体障害、知的障害児者のホームヘルプ（身体介護・家事援助）の事業も開始した。

2005年8月に介護保険の事業を基準該当ではなく、府の認可に変更した。

2006年度は、障害者自立支援法によるこれらの改正があり、現在は、居宅介護（身体、知的、精神、障害児）、重度訪問介護（全身性障害）、行動援護（知的、精神）、重度障害者等包括支援事業と、市の委託により移動支援事業を行っている。

④ガイドヘルパー派遣事業（居宅介護事業・移動支援）【法人事業】

2000年度8月より、全身性障害者と知的障害者の方のガイドヘルパーの利用を増やし、外出の機会を増やしていただくことを目的にガイドヘルパーステーション“HOT!”を開設し、ガイドヘルパーの紹介・調整を始めた。

2003年度より身体障害、知的障害児者の制度が支援費制度になり、身体障害、知的障害児者のホームヘルプ（身体介護・家事援助）の事業の中の移動介護区分に大枠が移行した。

2006年度の障害者自立支援法による制度改正により、移動支援事業として再編され、市の委託により実施している。

⑤日中活動の場「ぼちぼちはうす」（法人事業）

障害のある方の豊かな日中活動を行っていただく場として、「ぼちぼちはうす」を2000年10月より開設した。2003年度春に、障害者共同作業所の認可ではなく、寝屋川市の基準該当の身体障害者デイサービスとして運用することになった（1名の知的障害の方の相互利用を含む）。利用時間は10:00～16:00となっている。デイサービスの枠外として一時的な利用や時間延長の取り組みも行っている。

主な利用者は、いわゆる最重度の重複障害をお持ちの方が中心である。

今年度は障害者自立支援法により制度的な存続の危機であった。上半期は、「障害者デイサービス」として、下半期は、「経過的デイサービス」と「重度障害者等包括支援事業の一部」として、運営をした。下半期からは、精神障害者ユニットを開設した。

見学・来訪者は93名、ボランティアはのべ33名であった。

2006年3月19日の毎日放送「映像06」でぼちぼちはうすが取材・放送された。それに伴って行った存続・拡充のための寄付活動により、117人の方から288万2100円の寄付をいただいた。

※法人事業の「ヘルパーステーションほっと」と「ぼちぼちはうす」の苦情解決第三者委員については、追手門学院大学講師の古川隆司さんをお願いしている。

⑥エルダーサロン

主にぼちぼちはうすを利用して、元気なお年寄りが集まることができる場所として、エルダーサロンを開催している。今年度は開催されなかった。

総計 0回 参加者のべ 0名

⑦ご飯王プロジェクト

「食事」を中心としたプログラム。メンバー間で献立を考え、買い出しをし、調理等も役割分担をするプログラム。仲間やボランティアも交えて楽しく美味しく食事を囲んで過ごす内容のもの。参加者は全員¥300を払い、一人一人が役割を持ち自分らしいスタイルで過ごすことを目的に、今年度8月より、市の公益事業の助成金を得、行いはじめた。次年度以降は、地域活動支援センターのプログラムとして再編させることになった。

「ランチ王」 総計：35回 参加数：136名 *うち当事者89名

「ランチ皇子」 総計：6回 参加数：14名 *うち当事者6名

(2) 交流活動

1. 在宅療養者交流会

「たすけあいの会」では、1984年度より、在宅の寝たきり老人・障害者・難病患者等とその家族、およびボランティアの交流の場づくりを企画している。

2006年度の活動内容は以下の通りである。

☆ 5月14日(日)	京都府立植物園	17名
☆ 11月3日(日)	四天王寺界限	18名
☆ 1月28日(日)	会員懇親会(十字の園)	20名
		総計 のべ 55名

2. 「たすけあいの会」では、1995年度より在宅のお年寄り・障害者・難病患者等の方々と買い物にいくプログラムを企画している。

2006年度は、多くの方がガイドヘルプで外出できるようになったこともあり、一端休止した。

3. たすけあいサロン（ミニデイサービス）

たすけあいの会では2000年度6月より、月に1度（第1土曜日）にめぐみデイサービスセンターをお借りして、ミニデイサービス（たすけあいサロン）を開催しはじめた。2001年度8月より場所を「ぼちぼちはうす」に変更し、続けている。

4月 8日（土）	6名
5月 6日（土）	6名
6月 3日（土）	7名
7月 1日（土）	9名
8月 5日（土）	8名
9月 2日（土）	8名
10月14日（土）	7名
11月25日（土）	7名
1月 6日（土）	6名
3月 3日（土）	7名
3月31日（土）	8名

総計 のべ 79名

4. ビューロー交流活動

ビューローを使って、会員・非会員にかかわらず地域のさまざまな人が交流できる場として2回の単発イベントを開催した。

☆8月24日（木） 「ベトナムのゆうべ」

話し手：田中 哲次郎氏 参加者 11名

☆1月12日（金） 「新春 英語落語で笑い初め！」

話し手：岩本 笑人氏 参加者 18名

総計 のべ 29名

5. 寝屋川さくらんぼの会ミニデイサービス

失語症ライブの同窓会を元に言語障害、失語症を持つ人たちの会「寝屋川さくらんぼの会」の運営への協力と各交流事業への参加を行った。さらに2001年度11月からは、めぐみデイサービスセンターにて言語聴覚士の方の協力を得、月に1度（第3土曜日）にミニデイサービスを行っている。現在は、場所を保健福祉センターに変え、言語聴覚士の専門学校生のボランティアの協力を得ながら活動を行っている。

4月15日（土）	参加者4名	家族 名	ボランティア13名
5月20日（土）	参加者4名	家族 名	ボランティア17名
6月17日（土）	参加者3名	家族 名	ボランティア19名
7月15日（土）	参加者5名	家族 名	ボランティア11名

8月19日(土)	参加者4名	家族名	ボランティア15名
9月16日(土)	参加者4名	家族名	ボランティア9名
10月21日(土)	参加者4名	家族名	ボランティア16名
11月18日(土)	参加者5名	家族名	ボランティア16名
12月16日(土)	参加者5名	家族名	ボランティア14名
1月20日(土)	参加者4名	家族名	ボランティア4名
2月17日(土)	参加者4名	家族名	ボランティア6名
3月17日(土)	参加者5名	家族名	ボランティア14名
総計			のべ参加者51名 ボランティア154名

6. びっくりおもちゃ箱の開催→休止

たすけあいの会が以前行っていた障害児の遊びのプログラム。ボランティアと障害児の遊びのプログラムとして、関係機関・学校に広報し行った。2006年度まで3年間行ったが、いろいろなニーズや方向性を検討し、今年度は、開催しないことにした。

7. そろどみ (SOL DE DOMINGO) の開催

障害の有無にかかわらず、地域の子どもたちとボランティアと一緒に遊ぶ活動を2006年度10月より開始。2006年度の登録メンバーは5名。毎月第1日曜日に「すだち」を拠点に活動を行っている。

プレ(おためしプログラム)として、2回開催。

8月6日(日)	メンバー3名	ボランティア6名
9月3日(日)	メンバー6名	ボランティア14名
10月1日(日)	メンバー3名	ボランティア10名
11月5日(日)	メンバー3名	ボランティア8名
12月3日(日)	メンバー5名	ボランティア8名
1月7日(日)	メンバー4名	ボランティア10名
2月4日(日)	メンバー0名	ボランティア9名

→ボランティアの研修にふりかえ

3月4日(日)	メンバー3名	ボランティア15名
---------	--------	-----------

総計 のべ107名

研修：そろどみリーダートレーニングを開催

1月21日(日)	参加者8名
----------	-------

(3) 福祉施設への訪問活動

1. 特別養護老人ホーム寝屋川十字の園

「たすけあいの会」では、昭和53年より毎月1回（第3火曜日）、市内の特別養護老人ホームを訪問し、清掃、縫製、お年寄りの話し相手・代筆等の活動を行っている。2006年度の活動は、以下の通りである。

	日 時	活 動 内 容	参加数
1	4/18 10時～12時	医療用ガーゼを用途別のサイズに折って箱に詰める。	6名
2	5/16 10時～12時	座薬を使いやすいよう工夫する作業をおこなう。清拭等に使用するため古着やタオルを裁断する。	3名
3	6/20 10時～12時	座薬を使いやすいよう工夫する作業をおこなう。	4名
4	7/18 10時～13時	医療用ガーゼを用途別のサイズに折って箱に詰める。	4名
5	9/19 10時～12時	清拭等に使用するため古着を裁断する。医療用ガーゼを用途別のサイズに折って箱に詰める。	3名
6	10/17 10時～12時	白い反物を裁断してシーツを作る。タオルを雑巾にして縫う。座薬を使いやすいよう工夫する作業をおこなう。	4名
7	11/21 10時～12時	裁断済みの白い反物をミシンがけしてシーツを作成する。	3名
8	12/19 10時～12時半	蛍光灯の清掃（1階、2階の入居者部屋・玄関・廊下等）、窓ガラス拭き。	7名
9	1/16 10時～12時半	座薬を使いやすいよう工夫する作業をおこなう。	3名
10	2/20 10時～12時半	医療用ガーゼを用途別のサイズに折って箱に詰める。	5名
11	3/20 10時～12時	医療用ガーゼを用途別のサイズに折って箱に詰める。座薬を使いやすいよう工夫する作業をおこなう。	3名

計のべ45名

2. ケアハウス「ロイヤルライフ・カミダ」

たすけあいの会では、1994年3月より市内のケアハウス「ロイヤルライフ・カミダ」への訪問を開始し、施設の清掃、デイサービスの補助、散歩、買い物の介助などを行っている。主に、木曜日は施設内の清掃、金曜日はデイサービスの補助を行っている。年々、活動は停滞しており、現在は定例では訪問できていない。

2006年度は総計3回、ボランティアは合計のべ3名であった。

3. デイサービスセンター輝きのまち（ケアハウス池田）

たすけあいの会では、1996年度の10月より市内のケアハウス「輝きのまちケアハウス池田」併設のデイサービスセンターへの訪問を開始し、週1回木曜日に特別浴の着脱のお手伝いを行っている。また、1997年度10月より月曜日にもデイサービスのお手伝いを行っている。

2006年度は月曜日のみで総計9回、ボランティアは合計のべ9名が訪問を行っている。

4. 老人保健施設「松柏苑」

たすけあいの会では、1998年度の5月より市内の小松病院に併設・建設された老人保健施設「松柏苑」への訪問を開始し、利用者の方の入浴後のお手伝いを週2回行っている。

2006年度は訪問なし。

5. めぐみデイサービスセンター

市内のデイサービスセンター。これまでもいろいろなつながりがあったが、今年度半ばに、新たに定例の訪問の依頼があり、隔週金曜日、訪問・活動を行った。

総計20回、ボランティアは合計のべ21名。

（4）行事援助活動

1. 福祉施設行事活動への協力

a) めぐみデイサービスセンター

市内のデイサービスセンターの行事援助を行っている。

2006年度はなし。

b) ロイヤルライフカミダ

①大掃除	6月29日	1回	6名
②ロイヤル祭	9月10日	1回	12名
③大掃除	12月6日	1回	6名

合計 3回 のべ24名

c) 輝きのまち「イケダ」

ふれあい祭	9月2日	1回	3名
-------	------	----	----

合計 1回 のべ 3名

総計 4回 のべ27名

2. 寝屋川保健所主催行事への協力

☆神経系難病者交流会「ひまわり会」への参加

月に1回開かれる大阪府寝屋川保健所主催の「ひまわり会」でボランティアとしてお手伝いさせていただいた。合計12回 のべ19名

☆痴呆性老人家族の会「ほほえみ会」への参加

隔月に1度開かれる大阪府寝屋川保健所主催の痴呆性老人家族の会「ほほえみ会」でボランティアとしてお手伝いさせていただいた。合計5回 のべ5名

3. 当事者団体などへの協力

(1) 寝屋川難病連絡会総会

11月19日(日)に行われた寝屋川難病連絡会第12回総会にボランティアとして3名がお手伝いさせていただいた。(参加者8名：会員4名)

(2) 精神障害者地域交流事業への協力

精神障害者地域交流事業を行っている「Club E&T」(旧ひなたぼっこの会)の運営への協力と各交流事業への参加を行った。昨年度より事務局を引き受けた。月に1回定例で運営委員会も行われている。

2006年度のClub E&Tの活動

① Club E&T 運営委員会 (関係機関が集まって会議)

開催数：12回 参加数：78名 *内当事者0人

② ふれあいの会 (当事者が中心に会議やイベントを企画し開催する場)

開催数：15回 参加数：138名 *内当事者105人

(チラシ編集会：広報活動。イベント案内やチラシの作成をする会)

開催数：10回 参加数：27名 *内当事者15人

④ 語り部プロジェクト (森実恵さんを招いて、「語ること」について話し合う)

日時：1月17日 場所：寝屋川市障害者地域生活支援センターあおぞら

参加数：19名 *内当事者11名

⑤ こころの健康講演会

(佛敎大学の漆葉先生を招き、「ひきこもり」について講演会を行いました)

日時：2月17日 場所：総合センター講堂 参加数：60名

⑥ 就労のつどい (現在就労している、また就労を希望するひとが集い交流をする場)

日時：3月17日 場所：寝屋川市就業・生活支援準備センター

参加数：28名 *内当事者19名

⑦ 春の遠足 (今回は能勢町にある「おおさか府民牧場」へのバスツアー)

日時：3月25日 場所：おおさか府民牧場 参加数：21名 *内当事者16名

総計41回 のべ371名 (内当事者数226名)

(5) 健康相談活動

「たすけあいの会」では、昭和61年度10月より週1回(水曜日)、医師による健康相談日を設けていたが、1996年度からは月1回テーマを決め「健康塾」として開催し、広く会員、一般市民の健康に関する相談を受け、また学習した。

*2006年度は実施せず

(6) 入浴サービス活動

「ぽかぽか・ゆったり・いい湯だな事業」

めぐみデイサービスセンターのお風呂を開放していただき、当会が介護し、在宅の療養者に入浴をしていただく事業。1996年度に調整や取り決めを主に行い、96年度末からの継続の1ケースを実施、97年度末にも依頼が入り、継続して対応した。2006年度は行われず。



2. 需給・連絡調整・相談活動

(1) 需給調整

	V求む	Vしたい	一般相談	その他	計
受付件数	38	25			63

- * ボランティア求むには、はじめはボランティアがほしいという相談であっても、その後、制度、サービスにつないだものもふくむ。
- * 在宅ケース受理に際しては、「家庭訪問」を行い、ニーズの的確な把握とボランティアの役割の明確化、及び受け入れ側のボランティアの理解を深めた。また、制度・サービスにつなげるものについてはつないだ。

(2) 連絡調整

(1) 合同ケース検討会(またはケア会議)開催の呼びかけと参加

ケースの検討をめぐって、保健所、福祉事務所、ボランティアセンター、社会福祉施設、子ども家庭センターそれにケースにかかわるボランティア、サービス提供機関など関係者が協議した。2006年度は、27ケース(ケア会議、カンファレンスについて開催された。ボランティアケースよりも、サービス提供機関のケースの方が多くなっている。

(2) 在宅難病患者地域ケア推進会議

寝屋川市内の在宅難病患者の地域ケアにかかわる関係機関の職員によって行われることになった在宅難病患者地域ケア推進会議に出席した。

(3) 精神障害者自立支援会議

精神病院への入院が長期化している精神障害者に対し、保健・医療・福祉の関係機関が連携して支援計画を樹立し、退院・地域での自立を支援する方策や地域システムを検討をする会議。以前行われていた精神保健福祉合同委員会を吸収するような形で行われている。

(4) ボランティア連絡協議会

寝屋川ボランティアセンターの登録グループの連絡協議会へ参加。ボランティアセンター、他のグループとの相互理解・情報交換を進めた。

(5) 居宅介護事業者連絡会

(6) 居宅介護支援事業者連絡会

(7) 精神居宅介護事業者連絡会

(8) 支援費事業者連絡会

以上、4つの事業者連絡会は、いずれもそれぞれの事業に関する寝屋川市主催の連絡会である。いずれにも参加して、情報収集などに努めた。

(9) 寝屋川市就業・生活支援準備センター運営委員会・実務者連絡会

今年度から寝屋川市が新規で立ち上げた障害者の就業、雇用を支援するためのセンターづくりの事業。委託先は隆光学園・輝きステーション。障害者生活支援センターとして、運営委員会と月に1回の実務者会議に参加した。

(3) 相談活動

1) シニアサポートセンターめぐみの第三者委員に任命されている。

2) 寝屋川市障害者生活支援事業の委託運営

2002年度より、寝屋川市より市町村障害者生活支援事業の委託をうけ、寝屋川市民たすけあいの会地域生活支援センターを運営している。制度の改正に伴い、10月からは、大阪府の指定相談支援事業所となり、また、寝屋川市の委託相談支援事業所になった。

難病者ピアカウンセリング・・・毎日

視覚障害者ピアカウンセリング・・・毎月第4土曜日

肢体不自由者ピアカウンセリング・・・週3日

聴覚障害者ピアカウンセリング・・・完全予約制

※ 障害者相談支援員初級研修に3名が受講した。

総合相談件数／連絡調整件数 1539件

3) 地域自立支援協議会への参加

障害者自立支援法に規定された障害者福祉全体のことを考える協議会。2007年3月28日に立ち上げされた。協議会の委員として参画している。

4) 寝屋川市障害福祉計画策定協議会への参加

障害者自立支援法の施行にともない新たに策定を義務づけられた寝屋川市障害福祉計画の策定協議会に推薦、参画した。

5) 障害者自立支援法にかかる障害程度区分審査会への審査員としての派遣

障害者自立支援法の介護給付のサービスを受けるにあたり、認定審査をうける必要がある。二次審査として、審査会が設置され、その審査員としてスタッフを派遣している

6) 社会的ひきこもり社会参加グループ支援モデル事業

府要項より「目的：社会的ひきこもりの支援のためには、社会参加のための練習の場を確保することが必要であるが、特に成人の社会的ひきこもり当事者が身近に利用できる福祉サービスが不足していることから、精神障害者地域生活支援センターなどに社会的ひきこもり専門支援機能を付加し、社会的ひきこもり社会参加支援グループ事業を実施する。」

今年度より、府内2カ所で行われているこのモデル事業の1カ所を委託をうけ実施している。社会的ひきこもりネットワーク会議からの推薦で4名の方の支援を行

っている。

7) 大阪府障害者福祉計画の見直しのための委員会にゲストスピーカーとして招聘された。(7/13)



「在宅療養者交流会」

3. ボランティアへの援助

(1) ケース検討会の開催

「たすけあいの会」では、在宅サービス活動に関わるボランティアへのフォロー・アップとして、毎月ケース検討会を開催している。個々のケースについてのボランティア相互の意見交換と、コンサルタントによる専門的助言を通して、活動の円滑な推進をはかった。また、関係機関との連絡調整の場にもなっている。

内容は以下の通りである。

	日時	活動内容	参加V	関係機関からの参加・コンサルタント
1	4/24 14:00 ~ 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて 個人情報保護法について	10名	安川CW (小松病院)、佐伯CW (松柏苑)、 菱川PHN
2	5/22 14:00 ~ 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	10名	安川CW (小松病院)、佐伯CW (松柏苑)、 山本CM

3	6/26 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	12名	安川CW (小松病院) 、佐伯CW (松柏苑) 石坂 (小松病院)
4	7/31 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	9名	安川CW (小松病院) 、佐伯CW (松柏苑)
5	8/28 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	10名	安川CW (小松病院) 、佐伯CW (松柏苑)
6	9/25 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	8名	佐伯CW (松柏苑)
7	10/23 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	10名	安川CW (小松病院) 、佐伯CW (松柏苑) 坂崎PHN (寝屋川保健所)
8	11/27 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	8名	
9	12/25 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	10名	佐伯CW (松柏苑)
10	1/22 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	7名	安川CW (小松病院)
11	2/26 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	7名	
12	3/26 14:00 - 16:30	継続ケースの報告と助言 新規ケースについて	5名	

★CW…ケースワーカーの略。PHN…保健師の略。CM…ケアマネージャーの略。

(2) グループ援助活動 (当事者団体支援)

* カンガルー倶楽部

1992年10月「子育てのお母さんたちへ」の講演会を機に発足。若いお母さんたちのグループ。

毎週1回、子どもたちの遊び、お母さん同士の交流を中心に活動を行っている。また、会報も発行している。

ビューローとしては連絡調整、会場・備品の提供などをおこなっている。

* 寝屋川難病連絡会

96年度の5月12日に、市内の難病団体および難病者のための寝屋川難病連絡会の発足総会が行われた。また月1回の運営委員会が行われている。当会はその事務局として、連絡調整、広報、会場・備品の提供などを行っている。

* 障がい者の自立を考える会「やじろべー」

車いす利用者の4名を中心に自分たちの自立生活を考える会として発足。障がい者自立に関することを考えながら、特に余暇的な活動を中心にされている。

(3) ろうきんパートナーシップ

大阪ボランティア協会と労働金庫が共催しているボランティア推進プログラムの受け入れ先を6年前から行っていたが、今年度も受入はなかった。

4. 教育・啓発活動

【1】 障害者ジョブサポーター養成講座（福祉医療機構助成金事業）

場 所：にぎわい創造館（寝屋川市立産業振興センター）

日 時：2007年3月22日（木）9：30～16：00

講 師：①廣瀬 明彦氏（相楽福祉会）

②前野 哲哉氏（大阪市就業・生活支援センター）

③加藤 恵 氏（社会福祉法人むそう）

④寺西 政克氏（寝屋川市就業・生活支援準備センター）

参加者：7名

【2】 精神保健福祉ボランティア養成講座

<上級者編>

① 8月26日（土）14時～16時

場所：寝屋川市総合センター4階 第2講義室

講師：栄 セツコ 氏（桃山学院大学）

参加数：3人

② 体験学習

受講生全員、9月の平日に2箇所の施設で1日ずつ体験

③ 9月27日（水）14時～16時

場所：寝屋川保健所1階 ミーティングルーム

講師：後藤 雅子 氏（精神保健福祉相談員）

参加者：3名

<初級者編>

場 所：寝屋川市保健福祉センター5階 第5研修室
精神障害者地域生活支援センター「あおぞら」

日 時：①10月 7日 (土)14時～16時
②10月 14日 (土)14時～16時
③10月 28日 (土)14時～16時
④11月 4日 (土)14時～16時

講 師：①石井 祐里子 氏 (京都光華女子大学)
②渡邊 新太郎 氏 (精神障害者の理解～病とは～)
③富田 昌吾 氏 (寝屋川市民たすけあいの会)
④寝屋川市精神障害者地域生活支援センター「あおぞら」のみなさん

参加者：①14名 ②7名 ③7名 ④10名

【3】かわち市民塾

「NPO活動の今日～生活と社会をつなぐメディアとしての役割に注目して～」

場 所：市立保健福祉センター 5階 第5研修室

日 時：12月 10日 (日) 13時半～15時半

講 師：松浦 さと子氏 (龍谷大学)

参加者：17名

【4】かわち市民塾

「ちがいを豊かさに～共に生きる社会をつくるために～」

場 所：市立池の里市民交流センター 3階 多目的室4

日 時：1月 27日 (土) 13時半～15時半

講 師：岩山 仁氏 (NPO 法人多民族共生人権教育センター理事)

参加者：22名

【5】かわ市民塾

「地域の中でゆっくりと～子育て支援の広場から～」

場 所：市立保健福祉センター 5階 多目的ホール

日 時：2月 24日 (土) 13時半～15時半

講 師：山本 和枝氏・加藤 智子氏

(親子の広場あんだんて 代表・副代表)

参加者：11名

【6】かわ市民塾

「『食育』について考えよう！～地域でのとりくみを通して」

場 所：市立総合センター 4階 視聴覚室

日 時：3月24日（土）13時半～15時半

講 師：野村 由賀里氏（NPO 法人ふれあいネットひらかた理事長）

参加者：10名

5. 広報活動

（1）会誌「つなぐ」の発行 6回

* B5版、手書き、10ページ 1000部（隔月刊）

* 「つなぐ」編集委員会の開催

★身体障害者刊行物協会の出版として第3種郵便物として発行

（2）広報一般

*会の動きやボランティア募集記事、講演会の案内などを、「広報ねやがわ」、「サンケイリビング京阪」、情報誌「ぱど」、「月刊ボランティア」、大阪ボランティア協会を通じての新聞、読売新聞・毎日新聞のボランティア欄、全国新聞などに随時掲載した。

（3）ホームページの公開

<http://homepage3.nifty.com/neyagawatasukeai>

6. 見学・来訪・交流、調査の依頼、実習生の受入

（1）見学・来訪・交流

社協CSW 2名

厚生労働省より2名

→今年度は、ぼちぼちはうすがTVにとりあげられた関係で、ぼちぼちはうすの見学が多かった＝ぼちぼちはうすの欄

ビューローに訪れた方 のべ407人

（2）調査・取材の依頼

調査については略

取材はなし

（3）実習生の受入

大阪国際福祉専門学校より1名

7. 調査・研究活動

活動なし

【2】組織と運営

1. 会 員

(1) 会員数=会費納入者

2007年3月末現在

	個人会員	団体会員	注) 数字のカウントの仕方
05年度までの会員	203名	18名	→ 2005年度会費納入者数
06年度 加入者	49名	8名	→ 新規および復活者数
06年度 退会者	51名	4名	→ 退会および2006年未入者数
会員数	201名	22名	→ 2006年会費納入者数
総会員数	223名		

(2) 会員へのサービス

- 1) 会誌「つなぐ」の送付 6回
- 2) ボランティア保険への加入 (一部会員のみ、会費より)

(3) 会員交流会=「コスモス」

日 時 7月22日 (土)
場 所 CHINA HISTORY 元 (北新地)
参加者 14名

(4) 会員研修

- 1) 6月8日 (木) 子ども関係NPO訪問(特定非営利活動法人子どもセンターあさひ) 参加者3名
- 2) 6月14日 (水) 愛知県知多半島のNPO・市民活動見学(特定非営利活動法人ふわり、社会福祉法人むそう、特定非営利活動法人もやい) 参加者4名

※見学後、ビューローにて報告会を開催。6月26日 (月) 参加者13名

2. 組織活動 (敬称略)

(1) 定期総会

日 時 2006年5月28日 (日) 10:45~12:10
場 所 ぼちぼちはうす
議 題 1) 2005年度事業報告及び決算報告の審議・承認
2) 2006年度事業計画及び予算計画の審議・承認
3) 2006年度役員選出
4) 特定非営利活動法人 寝屋川市民たすけあいの会地域ケアセンター
2005年度事業報告および2006年事業計画
出席者 158名 (委任状提出者122名、非会員10名を含む)

(2) 運営委員会

毎月第1月曜日 13:30～16:30

運営委員：黒田民子、上野谷加代子、田中哲次郎、別所訓子、中尾京子、
西尾美津子、橋本義郎、森川加代、村井謙太、守本友美

主な議事 事業の企画と調整
財政問題等

(3) 事務局

事務局体制 事務局・有償ボランティア 毎週火・木・金曜日

事務局・無償ボランティア 39回

ビューロー開館 月～金曜日 10～17時

(4) 職員

2006年度の常勤職員は12名であった。

村井謙太、富田昌吾、中務飛鳥、福井美奈子、西岡寛信、吉田智里、
長渡信博、花戸音羽、山野仁美、三国洋子（常勤ヘルパー）、藤本祥平、
河野愛美（2006年5月にて退職）、門前希代子（2007年3月にて退職）

3. 財源の確保

(1) 会員及び寄付（略）

寄付者の数 のべ178名

(2) バザーの開催

A) ぼちぼちバザール（主催：8団体の参加）

日にち：7月9日（日）

場 所：総合センター1階

売 上：71,025円

B) ロイヤル祭

日にち：9月10日（日）

場 所：ロイヤルライフカミダ

売 上：13,080円

たこ焼きの売り上げ17,750円寄付頂きました

C) フェット・エスポアール

日にち：10月28日（土）、10月29日（日）

場 所：エスポアール

売 上：47,950円 参加費等5,750円 差し引き42,200円

D) エコ・フェスタ

日にち：11月19日（日）

場 所：打上川池水緑地公園

※ 雨天のため中止。

(3) 特別事業

1) 印刷事業

95年度より、大阪府福祉基金により購入した印刷機を利用し、印刷事業を行なっている。2003年印刷機を買い換えた。

2) 民間助成金事業

①障害者就労実習のための地域通貨ショップ開発事業

平成18年度福祉医療機構高齢者・障害者福祉基金事業(地方分)

・「だ・が・し・や」の開設

・障害者ジョブ・サポーター養成講座の開催 など

②寝屋川市公益活動支援公募補助金事業

A：精神障害者のための食をテーマとしたサロンを行う事業

～スリーコイン「ご飯王」 デイ&ナイト～

→ランチ王の項参照

B：「こころにしんどさを抱える人たち」の社会参加促進のための
フリースペース立ち上げ事業

新しく借りた一軒家「すだち」およびビューローのスペース整備など
を行い、フリースペース、活動スペースの提供を行う事業

③寝屋川市社会福祉協議会「ふくし発見プラン一般公募助成金」

かわち市民塾連続講座 →教育、啓発の項目参照



「だがしや」